

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(76)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(76)—

1. 始めに

前報(75)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

Deutsche Shallplatten ET-1002

モーツアルト 交響曲 39 番変ホ長調

交響曲 32 番ト長調

交響曲 34 番ハ長調

オットマール・ズイトナー指揮シュターツカペレ・ドレスデン

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Deutsche Shallplatten 盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

交響曲 39 番は、生き生きとした躍動的な演奏です。

交響曲 32 番も交響曲 34 番も、交響曲 39 番と同様に躍動的でダイナミックな演奏です。

シュターツカペレの演奏とあって、交響曲というよりは、オペラの序曲を思わせるような浮き浮きとした期待感を持たせてくれます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の交換などの総合的な効果として、ドレスデンのシュターツカペレらしい、モーツアルトのオペラを連想させるような演奏の表情が伺えました。

以上